



記者配付資料

平成22年8月16日

大阪経済記者クラブ会員各位

米国ミネソタ州知事と同州の世界的医療機器メーカー関係者の来阪にあわせ、 国際イベント「世界のメディカル・ポリス “ミネソタと関西の連携” を開催します

【お問合せ先】

大阪商工会議所 経済産業部（槇山）

TEL 06-6944-6484

- 大阪商工会議所は、ティム・ポーレンティ米国ミネソタ州知事が、同州内の世界的な医療機器メーカー関係者を伴って来阪するのにあわせ、医療産業、医療機器開発促進等に焦点をあてた国際イベント「世界のメディカル・ポリス” ミネソタと関西の連携」を9月16日に開催する。
- 米国ミネソタ州は、ミネソタ大学やメイヨークリニックといった有力な研究組織や医療機関が存在しているほか、メドトロニック社、セント・ジュード・メディカル社などの大手企業をはじめ、米国食品医薬品局（FDA）が認可する医療機器メーカー600社以上が集積する医療機器開発の世界的拠点。
- 大阪商工会議所は今年2月に、同州のバイオ産業育成等のための産学官連携組織「バイオビジネス・アライアンス・オブ・ミネソタ（BioBusiness Alliance of Minnesota：略称BBAM）」と協力提携（MOU）を締結。ティム・ポーレンティ米国ミネソタ州知事は、大阪商工会議所とBBAMが協力提携（MOU）を締結したことにより関西に注目し、関西地域の医療関連産業の集積、国際的な研究レベルを認識。州内の世界的な医療機器メーカー関係者を伴って、大阪を訪問することとなった。
- ミネソタ州から来阪する企業は、メドトロニック社、ボストン・サイエンティフィック社、セント・ジュード・メディカル社といった治療機器分野で売上高世界ランキング上位を占める企業。関西のイベントで同州の世界トップクラスの医療機器メーカーが勢揃いするのは今回が初めてとなる。
- 国際イベント「世界のメディカル・ポリス” ミネソタと関西の連携」では、来阪企業のプレゼンテーションのほか、医療を核とした産業振興について、ミネソタ州の成功事例を浮き彫りにし、また、関西との連携にも触れるパネルディスカッションを実施する。

以上

<添付資料>

資料1：「世界のメディカル・ポリス” ミネソタと関西の連携」概要

資料2：「世界のメディカル・ポリス” ミネソタと関西の連携」に参加する
米国医療機器メーカーの概要



資料1

「“世界のメディカル・ポリス” ミネソタと関西の連携」 開催概要

日時：2010年9月16日（木）9時30分～12時

場所：ヒルトンホテル大阪

主催：ミネソタ州政府、大阪商工会議所

後援：在大阪・神戸米国総領事館

協力：独立行政法人国立循環器病研究センター、財団法人医療機器センター（予定）

参加無料 定員：300名（先着順・企業優先） 同時通訳

お申込は[こちら](#)から。

プログラム

① オープニング

開会挨拶 大阪商工会議所 会頭 佐藤茂雄氏

歓迎御挨拶 在大阪・神戸米国総領事館 総領事 エドワード・ドン氏

② ミネソタ州企業プレゼンテーション

「セント・ジュード・メディカル社について」

セント・ジュード・メディカル 副社長 デービッド・スミス氏

「ボストン・サイエンティフィック社について」

ボストン・サイエンティフィック 営業担当副社長 スティーブ・ブラム氏（調整中）

「メドトロニック社について」

日本メドトロニック(株) 取締役副社長 大西昭郎氏

「アメリカン・メディカル・システムズ社について」

日本AMS(株) 代表取締役 倉田進氏

③ パネル・ディスカッション

テーマ：「“世界のメディカルポリス” ミネソタと関西の連携」

モデレーター：国立循環器病研究センター研究所

副所長・研究開発基盤センター長 妙中義之氏

講演「メディカル・バイオのハブ ミネソタと大阪の連携」

ミネソタ州知事 ティム・ポーレンティ氏

講演「関西の医療関連産業とミネソタとの連携」

国立循環器病研究センター 妙中義之氏

パネル・ディスカッション「裾野の広い医療産業の将来性」

パネラー：

バイオ・ビジネス・アライアンス・オブ・ミネソタ 代表 デール・ワールストローム氏

メドトロニック 国際担当シニア・ディレクター Dr. トレバー・ガン氏

セント・ジュード・メディカル 副社長 デービッド・スミス氏

ミネソタ・ビジネス・パートナーシップ 代表 チャーリー・ウエーバー氏

ミネソタ企業のための訪問ツアー（予定）

<9月15日午後>

国立循環器病研究センター 訪問

以上



資料2

「“世界のメディカル・ポリス” ミネソタと関西の連携」に参加する

米国医療機器メーカーの概要

メドトロニック社（本社ミネソタ州）

メドトロニック社は1949年に、世界で初めて電池式体外型心臓ペースメーカーを開発したアール・バックンによって米国で設立され、特に治療機器分野で優れた開発実績のあるグローバル企業。世界各国に研究開発、製造、営業等拠点250を有し、38000人の従業員数。心疾患をはじめとして、その領域を拡大し、パーキンソン病、糖尿病、脊髄疾患、脳疾患、慢性的な痛みに及ぶまで多様な疾患領域のための医療機器の開発を行っている。同社の製品は、世界120カ国で慢性疾患患者の治療に使われている。

セント・ジュード・メディカル社（本社ミネソタ州）

セント・ジュード・メディカル社は、1976年に設立。埋め込み型除細動器、ペースメーカー、人工心臓弁、脳深部電気刺激治療機器等、心疾患を中心とした循環器系疾患、神経疾患に注力した製品開発を行っている。従業員は世界中で14000人を超え、2009年の売上が4681億円（\$1=¥100換算）2004年から5年間の売上高成長率は15.5%、今後の研究開発費は売上高の12%を維持するとしている。

ボストン・サイエンティフィック社（本社マサチューセッツ州）

世界に25000人を超える従業員を抱え、17の製造拠点をもつ。年間1000億円の研究開発費を投じている。心疾患、消化器系疾患、肺疾患、泌尿器系疾患、疼痛等を中心とした治療機器開発を得意とする。カテーテル治療を代表とする低侵襲治療法関連機器、不整脈や心停止に対応する治療機器、イメージングや電気生理学を利用したカテーテルマッピングといった治療機器等をはじめとする13000種以上の製品を有する。ミネソタ州には3つの拠点をもつ。

アメリカン・メディカル・システムズ社（本社ミネソタ州）

アメリカン・メディカル・システムズ社は1972年に設立、勃起障害、前立腺肥大症、脱出症、その他の骨盤部位の障害に関する多様な治療機器や治療法を提供している。同社の製品の多くは低侵襲的治療であり、2009年の一年間に世界で約33.5万人の患者の治療に使用された。9カ国に1200人超の従業員を抱える。

以上